

平成29年度第1回タウンミーティング議事録（概要）

- 開催日時 平成29年11月11日（土）午後2時～4時
- 開催場所 きゅりあん イベントホール
- 参加人数 45人
- 区出席者 濱野区長、中山企画部長、堀越地域振興部長、藤田都市環境部長、本城教育委員会事務局教育次長、柏原参事（企画調整課長事務取扱）、中村都市計画課長、小林環境課長、飛田障害者施策推進担当課長
- 司会進行 中元広報広聴課長
- 内容 意見交換
 - 1 町会活動への参加、火災等に備えることについて
 - 2 勝島にある屋外広告による景観被害について
 - 3 障害者サービスの拡大・充実について
 - 4 公園・区道の植栽のメンテナンスについて
 - 5 観光、イベントについて
 - 6 大崎図書館の存続希望
 - 7 水とみどりの基本計画についての提言
 - 8 羽田空港新ルートについて
 - 9 羽田空港新ルートについて
 - 10 羽田空港新ルートについて
 - 11 北品川の景観と再開発について
 - 12 住み続けたいまちと地域住民の声を大切にする取り組みについて
 - 13 全世代にとって魅力ある品川区にするために区、住民はどう力を合わせていけばいいか、皆で考えていきたい

意見交換

◆区民A

1. 町会活動への参加、火災等に備えることについて

町会の役員として、地域の様々な活動に携わってきたが、近い将来起こると想定されている地震や大規模災害時に、高層建築が増加し、地域の人口が増える中で、避難や救助、食料等の生活必需品の支給にどう対応していくのか不安に思っている。

避難区域の人たち全員が、該当避難所となっている学校に避難するのはスペース的にも無理である。最近のマンションは耐震・耐火が十分考慮されて作られているが、そうした中であっても避難所への避難や救助は十分想定されることである、区として何らかの対応策を講じていると思うが、避難所を運営する町会に、実地に沿った対応策などを早目に指導していただきたい。

町会としては、防災訓練にできるだけ多くの方に参加してもらおうと、周知徹底を図っている。高層マンションなどはほとんどがオートロックになっていて、エントランスにお知らせを張り出すぐらいしか出来ずにいる。今後、防災訓練などは区から直接各マンションへ知らせる体制をとっていただければと思う。また、町会から区への連絡はお互いに専用の窓口を設け、随時連絡がとれたらいいと思っている。練習に参加することで地域の皆さんと顔見知りになることが出来る。まちに知り合いができることは心強いことではないか。人のつながりが出来て、まち全体がつながることを願っている。

1. 区コメント

人が増えても安全なまちをつくるというのは、行政も努力をしなければいけないことだと思います。

町会、自治会が、その地域やそこに住んでいる人たちの生活をしっかり把握をしていくことも、一つ大事なことではないかと思います。「隣は何をする人ぞ」、ではなくて、地域の人たちがお互いに助け合えるような体制を作っておくことが、いざというときに役に立つと考えます。品川区では町会・自治会を助成する様々な制度があります。ぜひ活用していただいて、町会が地域をしっかりと束ねていただけるようになっていただければと思っています。

もちろん安全に向けた施設づくりも、大切なことだと思います。例えば逃げ込めるような施設をつくっておくとか、あるいは学校避難所を堅固なものにしておくとかということも、徐々にではありますけれども進めておりますので、ぜひご注目をいただければと思っています。

また、避難所も念頭に入れた学校の改築の計画も立てていますので、ご理解をいただければと思います。

◆区民B

2. 勝島にある屋外広告による景観被害について

勝島1丁目にあるマンション側面の看板について、この辺りは品川百景、「八潮団地から見える夕焼け」にも選ばれた自然豊かな心休まる地域であるが、平成29年4月末に突然、マンション側面の建物の屋上に看板が設置された。ピンクに彩られた人物の顔がこちらをのぞいているような看板で、マンションの代表者を通じて撤去を求めた結果、顔写真は撤去されたが、周りの雰囲気とはかけ離れたピンク色はそのままである。その後何度も撤去依頼はしたが、看板設置の広告代理店は自分たちの権利を主張するのみである。

一般住民の最低の権利を守っていただきたく、毎日が心休まる日々を送れるように、お力添えをお願いしたい。

2. 区コメント

いただいた看板の写真を拝見しまして、おっしゃることはもっともだと思いました。屋外広告物については、東京都の条例に基づいておりますので、東京都と連絡を取り合って対応していきたいと思っております。

◆区民C

3. 障害者サービスの拡大・充実について

私の娘は知的障害がある。高校卒業後は区内の作業所に1人で通所していたが、情緒不安定になり、誰かの支援がないと通所することが出来なくなった。しかし、品川区では通所に移動支援のサービスを使うことが出来ない。

現在の品川区の障害者サービスは質・量ともに不足しており、23区最低のレベルだと思う。そのため、多くの方が他区や都内の施設を利用しているが、遠く離れた障害者施設では、家族が見守れないため、事件や事故が起こっている状況である。区内に重度の知的障害者が入れる入所施設やグループホームがあればこれらの事件はなくなると思う。区内ではNPO法人が唯一、重度の障害者を受け入れるグループホームを運営しているが、区内には素晴らしい運営をしている民間事業者の方がいて、今後も整備したいという意欲を持っておられる。また通所施設にしても、区外の事業者の中には創意工夫により素晴らしい取り組みを行うところがある。区内の4法人以外の事業者が施設を整備する場合にも、土地を無償で提供していただくなど、平等にその機会を与えていただければ、もっと整備が進むと思う。障害者も住み続けることができる品川区になるようにお願いしたい。

3. 区コメント

品川区の障害者福祉のレベルは率直に言って決して高くない。むしろ低い方だと思っています。この分野は、すぐに完全な形では無理ですが、充実をさせていきたいと考えています。

その1つとして、南品川に今、障害児者総合支援施設を建設しています。この施設を、遅れていた障害者福祉に力を入れていく、その1つの証として充実させていきたいと思っています。

生活介護あるいは就労継続支援B型事業を併設する予定でありますので、見守っていただければと思います。

◆区民D

4. 公園・区道の植栽のメンテナンスについて

私は、今、権現山公園の清掃をしている。そこはふれあい作業所が公園課から依頼を受けて清掃しているが、ふれあい作業所では全部やり切れないということで、シルバー人材センターに依頼があり、私はそこから清掃業務を受けている。

その公園の中に鉄柵で囲まれて、中に入れないような桜の木があるが、その草取りはふれあい作業所はやらないということで、公園課は他の業者に頼んでいる。しかし柵の中の草は、業者が来て処理されることはほとんどない。もっと公園課の職員が現場を見てくれば、草を取らなければいけないということはわかると思う。机の上の仕事ばかりやっているからそういうことになるのだと思う。もっと現場を見て欲しい。

4. 区コメント

外へ出て見るということは大事だと思いますが、職員の数には本当に限られていますので、委託をするなど、状況を把握するための人手を確保する工夫をさせていただきたいと思います。また皆さんからお知らせいただくことも大事なことだと思いますので、ぜひ情報をいただきたいと思います。刈り込むことについては、しっかり、これからやっていきたいと思っています。

◆区民E

5. 観光、イベントについて

2020年の東京オリンピックもあり、最近よく外国の方を見かけるようになった。そこで、私は外国人向けの品川区を案内するツアーを考えてみた。なるべく日本の歴史を感じられるところがいいと思うので、品川歴史館や大森貝塚などを案内したり、しながわ品川宿場まつりを見てもらいたいと考えている。現在、品川区ではボランティア活動の募集はあっても大人が中心で、あまり若い人が活躍できる場所が少ないように感じる。品川区の未来を担っていく存在の高校生や、出来れば私のような中学生などもどんどん募集して欲しい。

5. 区コメント

これからオリンピックに向けて外国の方がたくさんお見えになる。そういう方に品川の良さを知っていただきたいと、私も大変強く思っているところです。

外国人向けの観光パンフレットなどを作成しましたがけれども、そういうものをどんどんまちの人に渡し、活用してもらって、外国の人に品川のよさを伝えられるようにしていただけたらと思っています。

外国の方がたくさんお見えになるというせっかくの機会ですから、品川の良さを知ってもらうための様々な努力をしていきたいと思えます。また、若い人が、いろいろな場面で活躍できるように、品川区としても一生懸命考えていきたいと思えます。

◆区民F

6. 大崎図書館の存続希望

大崎駅周辺は大人にとっては大変便利になったが、子どもたちが安心してゆっくり過ごせる場所が少なくなった。その上、大崎図書館がなくなったらと危惧する。私たちは子どもを大切にし、子どもたちの中にこそ将来の希望を見出すことができるのではないかと。跡地に大崎幼稚園との話も聞いたが、私の子育てと幼児教育にかかわった経験からすると、幼稚園はむしろ芳水小のほうに設立して、理想の幼・小一貫とすべきではないかと。計画中とされる芳水小の体育館の地下に図書館というのは、防音対策はしても窓もなく、図書館にふさわしい環境と言えるだろうか。大崎図書館を現在の場所に存続をして、生涯学習の拠点として発展させていただくよう、お願いしたい。利用者や図書館を必要としている方、環境、建物を大切に思っている方々の声をぜひ聞いて欲しい。

6. 区コメント

大崎図書館は地域の人たちが土地を提供したりして、地域の皆さんが作ったということはよく承知しております。地域の思いも大切にしながら、しかし、まちは、日本は変わっていくということも、現実のこととして受けとめる必要があります。

大崎図書館閉館後の図書環境は、西口に取り次ぎ施設を開設することなどでカバーしていきたいと思っております。この取り次ぎ施設をもってカバーすることで、大崎地区の地域の3拠点で、さらに2万点ほど図書の蔵書を増やしていくことができると思っております。そのようにして、図書館環境をしっかりと守る、充実させる工夫をしていきたいと思っております。

◆区民G

7. 水とみどりの基本計画についての提言

家の近所に湧き水が出ていることを知った。柵というよりは、檻のような感じで囲まれていた。水に近寄れなく、近くにあまり人がいるのを見たことがない。柵を取ると、子どもが事故に遭ったらどうするという懸念もあるが、無機質な柵ではなくて、例えば低木で柵にする、ビオトープみたいな形にするなどして、区としてブランド化したら、環境にいいまちということアピールできると思う。水とみどりの基本計画には川のことは入っているが、湧き水のことは書いていなかった。湧き水という観点から、自然がある品川区という方向になればいいと思う。まずは今、湧き水が出ている所の親水性を高め、保全していくことを進めれば、品川区環境都市としてブランド化していけるのではないかと思う。

7. 区コメント

水は、人間が生きていく上での一つの大きな潤いになると思っております。そういう意味で湧き水というのは、心が静まる、穏やかな気持ちになるという効果があると思いますので、大事にしていきたいと思っています。周りの柵については、あまり美的な配慮に意を尽くしていないというところがあるのかと思います。維持管理とか安全面とか地形的な制約などがあってなかなか難しい面があります。しかし、湧き水にふさわしいような柵、あるいは環境に整えられるよう、努力を続けていきたいと思っています。

◆区民H

8. 羽田空港新ルートについて

国土交通省が計画している新飛行ルート案によると、南風が吹く日の午後3時から7時まで4時間、大型のジェット旅客機がちょうどこの大井町駅の上、300メートルのところを通過して、羽田飛行場に着陸する。騒音は80デシベル。これは地下鉄の中にいるのと同じ状況だそうだ。この上を飛ぶA滑走路、八潮のほうはC滑走路で、1時間当たり44便、4時間に176便のジェット旅客機が着陸する。わずか1分36秒に1機の割合で着陸することになる。大変な騒音が見込まれる。

3年後間違いなく大井町駅周辺の住民は騒音と大気汚染それに落下物の心配をすることになる。大井町が騒音のまち、ゴーストタウンになるのではないか。

ぜひ区民ファーストの立場に立って、地域の住民の声を集約して、国土交通省と交渉していただきたい。

◆区民 I

9. 羽田空港新ルートについて

・私は新計画が根拠とする、日本の観光立国化推進とか、国際競争力強化には大賛成であるが、その上で、増便の新ルートは本当に合理的な計画と言えるのか。国土交通省は6,400億円のプラスの経済効果だけを試算しているが、それを上回るデメリットが想定されると考える。頻度の高い通過騒音、人口密集地への落下物、大気汚染、不動産価値の低下、万一の墜落や、テロによる甚大な被害など。私はメリットを認めないというつもりはないが、とても割に合う話ではないと思う。この件、あらゆるメリット、デメリットを総合的に勘案して、品川の立場を整理されていると思う。次の4つから、どのイメージを持っているのか聞かせて欲しい。

- ①国や都にメリットは大きい、品川でもメリットがある。
- ②品川はデメリットが大きい、都内通過全体にはメリットが大きい。
- ③通過地域全体でもデメリットが大きい、国としてはメリットが大きい。
- ④計画全体、全地域にデメリットがある。

・2014年の国交省計画発表時に増便根拠の1つとして、2千万人訪日旅客対応としていたが、既に去年2千4百万人を超え、今は4千万人対応とすりかわっている。もう1つ、今回の新ルート導入で国際線を3万9千回増便できると言っているが、このうち2万6千回以上は既存のルートで運用見直しできると国土交通省自身が認識している。あまりにもずさんで、市民だけでなく関連自治体もばかにした話に思えるが、いかがか。

・つい最近のニュースで、国土交通省と都が日本橋の空を取り戻すべく、首都高の地下埋設に向けて具体的な行動を始めたと知った。日本橋の上を通る首都高建設について、60年の東京五輪のときの対応を見直すかのようだ。羽田新ルート計画に対して、むしろ警鐘すら鳴らす示唆に富んだ話に見える。区長はどのように感じるか。

◆区民 J

10. 羽田空港新ルートについて

・9月23日、大阪市北区でKLMオランダ航空の旅客機から胴体パネルが落下して、走行中の乗用車に激突するという事故があった。他にも、羽田空港、成田空港で事故があった。品川区には2本の低空着陸ルートが設定されているが、落下物による事故が発生することが、この事故でわかる。区長には国に対して直接区民の安全にかかわる重大な問題として、区民を代表して、その対策等を問いただしていただきたいと思う。

・報道によると、国際ホッケー連盟は東京オリンピックの大井ホッケー競技場が旅客機の騒音で支障が出るのではないかと、国際オリンピック委員会、組織委員会に対策を求めているという。既にブラインドサッカーは大井競技場から江東へ移っているが、品川区はこの他いくつもの運動公園が

ある。旅客機による騒音で野球やサッカーなどに支障が出るのが考えられる。私の住む地域は天王洲公園の近くだが、ここでは旅客機が高度300メートルで2分に1回通過し、騒音は大体80デシベルに達する。航空機による騒音防止用の弾力運用として、学校、病院などの防音工事助成をすると国土交通省は申しているが、それと引きかえに低空飛行を認めるということは区民の合意になっていない。区は区民が懸念している問題を区民から引き出して、区と国土交通省との交渉の場でテーブルに乗せて問題を正すことが必要ではないか。

8・9・10 区コメント

羽田のことについては品川区にとって大変重要なことだと認識しております。この羽田の増便というのは、日本の国としてオリンピックを成功させる、あるいはインバウンドを充実していくという、国の政策として不可欠だということです。それは理解しますが、品川区と捉えれば、品川区民にとってはデメリットしか降ってこない。ゆゆしき問題だと認識しております。

国土交通省へ参りまして、品川区としては何のメリットもないことだと、それでもこれは国策としてどうしてもやるということであれば、別の面で品川区民にとってメリットがあることを提示してもらいたいという交渉をしました。国土交通省としても十分にわかるということで、何らかのことを実施していきたいということでした。その中身については今日の段階では申し上げられませんが、品川区に対して、国土交通省としてできる品川区民へのメリットの提示を約束していただきました。その提示される中身を、国土交通省にしっかりと実現していただくことが私のとるべき道ではないかと考えています。飛行機が飛ばないのが一番いいのですが、どこかを飛ばなければならない、そしてまた国策ということですので、新計画を受けるとしたら、品川区にとって別のメリットをしっかりと提示して欲しいと、今、交渉をしているところです。

◆区民K

1 1. 北品川の景観と再開発について

京浜急行北品川駅の高架化について、高架化することに反対ではないが、そこに駅前広場をつくるという計画に大きな疑問を感じている。地元町会の説明会でも多くの方が広場は要らない、そして再開発協議会というメンバーの方も、全員ではないが、反対をしている方が多いと聞いている。日本交通計画協会の駅周辺地区のまちづくり研究部会の資料が出ているが、その中の一部分を読むと、大都市圏の小さな駅、都心近郊の歩行者中心のにぎわいのある商業空間と古くからある住宅地の環境保全ということをやっている。駅前広場は要らないということではないかと思う。また、立

体化によって、京浜急行はルート変更する。変更対象地域は立ち退きになる。何回も同じ説明を聞いているが、技術的に難しいから他の手段はないという。しかし、品川区としてルート変更をしないで高架化して欲しいという要望をしていただきたい。

1 1. 区コメント

この京浜急行の問題であります。大分昔の話ですが、JRで民衆駅構想というのを作りました。要は駅ビルのことです。つまり駅だけではなくて、そこに商業施設だとか近隣の人たちが集える場所などを設けるということです。駅が単なる鉄道の乗降の施設だけではなくて、いろいろな複合施設になってきたということが何十年かの間で進んでまいりました。おそらくこの京浜急行についても、新しい駅舎の中でそういうことがあるのかもしれませんが、私は駅舎が駅舎以外の用途で大きくなる必要はないと思っています。駅の最大の機能は電車に乗る、降りることですので、それを第1に優先していただき、そして地域住民と融和をするという観点で駅を作ってもらいたい。私なりに、このような駅の機能についての考えを、京浜急行に申し上げていきたいと思っています。

広場についても、広場というのがほんとうに駅の機能として必要なのかどうか。私は、駅は駅の交通、電車の乗り降りに特化してもらいたいという考えです。当然のことながら、京浜急行も営利企業ですので、営利企業という考えのもとでいろいろと活動していくと思いますが、行政としては駅としての機能を第1にと、申し上げていきたいと思っています。

◆区民L

1 2. 住み続けたいまちと地域住民の声を大切に作る取り組みについて

品川区民のほとんどが品川区に住み続けたいと思っている。このことは非常に重要なことで、こういう気持ちというのは大切にされなければいけないと思う。なぜなら、私たち区民が主人公だからである。

ところが、最近、区の税金が投入されて、非常に多くのタワーマンションの建設が進み、風害がひどくなり、駅の通勤ラッシュも大変ひどくなっている。さらに羽田空港の増便計画に関連して、品川区の上空を東京タワーよりも低い高度で飛ぶ計画がされており、騒音や落下物、墜落などの危険が指摘されている。さらに補助29号線を通すために大崎図書館が移設され、居住者の立ち退きが進められ、住み続けたいまちから無理やり追い出される人が出てきている。しっかりと、私たち区民の日々の生活に目を向けて欲しい。また区の職員の方々は私たち区民のために働いているのだから、区民のためにならない施策だと思ったら意見を言って欲しい。私たちは私たちの税金を地域の保育園、特養ホームの増設や医療の充実、地域中小の商工業や商店街の振興に使うことを望んでいる。行政はそうした声

にもっと積極的にこたえるべきではないか。多くのよい点を持つ品川区がこれからも発展していくように、私たち地域住民の声を大切にし、頻繁にこのような機会を多くの場所とさまざまな時間帯で行い、区政に反映をさせていただきたい。

12. 区コメント

品川区の特徴、特色はどういうものであるかということ、かつては中小企業、零細企業、工場のまちでありました。小さな工場が至るところにあって、ものを作っていました。しかし、今はほとんどありません。それは日本全体のものづくりが中国に移っていったということに付随するのかもしれませんが、今、品川区は全体として、商業のまちだと思います。商店街のまち、それが今の品川区の特色ではないかと思っています。質問とずれているかもしれませんが、区内共通商品券というのがありました。多くの区ではほとんど商店街では使われなくて、大型店舗で使われてしまったそうです。品川区はそうではなくて、ほとんどが地元の商店街で使われました。それだけ地元の商店街が元気で活動しているということです。かつては小さな工場がいっぱいあって元気でものを作っていました。今は商店街が元気で商売をしているということだろうと思います。そういった商店街を支援していくのは品川区の大きな仕事だと思っています。

住み続けたいと願う区民の方々が住み続けるためには、住宅の問題、生活環境などの問題に一生懸命、区が取り組むことだと思います。ご質問の中にありましたけれども、品川区は決してタワーマンションの建設にお金を投入しているということはありません。そういうことではなくて、例えば狭い道路を少しでも拡幅して人々が通りやすくなるようにする、あるいは商店街の商業施設などの街路灯などを充実させていくなどに、品川区として力を注いでいく。住みやすい、暮らしやすい、そして便利なまちにしていくことが品川区役所の仕事だと思っています。

補助29号線を通す弊害についても、ダメージをいかに軽減していくかが区役所の仕事、務めだと思っています。

◆区民M

13. 全世代にとって魅力ある品川区にするために区、住民はどう力を合わせていけばいいか、皆で考えていきたい

私の場合は、皆さんと違って具体的なテーマは特になくて、魅力ある品川区をつくっていただきたいということで、今回発言させていただきたい。

私は三十数年前、今の西大井の駅前、再開発でマンションが出来たときに大田区から転入してきた。大田区にいたときは行政が悪いのか、娘が毎朝、保育園に行きたくないと泣いていた。こちらに来て、保育園、小学校に毎朝喜んで行くようになって、品川区というのはいいところだと、私は

品川区のファンになった。

最近、私の周りでも大きな家がなくなった後、小さな家が三、四軒出来たり、大型のマンションが出来て、新しい住民が増えている。新しい住民は子育て中の若い方が多いと思うので、そういう方に品川区に来てよかったと思ってもらえるような保育園行政あるいは学校行政を望む。その後、その方たちが高齢者になったときに、品川区はやっぱり福祉もいい、老人医療もいいという体制になっていてもらいたいと思っている。

13. 区コメント

保育園については、一生懸命つくるということで、努力を重ねていますが、何といても土地がないというのが問題で、増設がなかなか困難です。それでも、少しでも保育園に入れる子どもたちを増やしていきたいという思いで努力を重ねております。

子育てという面では、妊娠、出産、そして育児に移行するというのが一連のサイクルですけれども、その全体をカバーできて応援できるようなシステムを作りたいということで、ネウボラネットワークを構築いたしました。子育てがしやすいような様々な機能、例えば病院、施設などが連携して妊娠から出産、育児までのネットワークを作り、応援していくということを始めているところです。

それから、福祉とか教育についても大事です。これらを進めるにあたっては2つの側面があって、いわゆるハードを整備する、学校を増やすなどのハード整備。それからもう1つ、制度、仕組みをしっかりと作っておくということも大事なことで考えています。例えば学校教育という面であれば、学校を改築して、学習環境を整えるというのが1つハードの内容です。そして、品川区の特色である小中一貫教育は制度、中身であります。中身を充実していくということで、工夫を重ね、区民にとって、子どもたちにとって、意味のある改革をしていくということを品川区として続けてきました。

このように、2つの側面でこれからも仕事をしていきたいと思っています。

最近、ゆうゆうプラザというのを作っています。昔は敬老会館、高齢者だけの施設でしたけれども、今は多世代の人たちがその施設の中で過ごす施設になっています。これから施設をつくるときには、多世代の人が1つの建物で過ごせるようなものにしていきたいと思っています。

区役所が勝手に思い込んで、このサービスならいいだろうと、勝手にサービス提供をしても的外れになるということがあります。多くの方々の声をしっかり聴いていきたいと思っています。